

# 景況ウォッチ

組合活性化情報

内閣府が8月8日に公表した平成30年7月期の「景気ウォッチャー調査(全国版景気動向調査)」によると、7月の景況を示す現状判断DI(季節調整値)は、前月比1.5ポイント低下の46.6(基準値50.0=前年同月比横ばいを示す)となった。また、2,3ヵ月先の景況を予測する先行き判断DI(季節調整値)は前月比1.0ポイント低下の49.0となった。

今回の調査結果に示された景気ウォッチャーの見方は、「緩やかな回復基調が続いているものの、平成30年7月豪雨によるマインド面の下押しもあり、引き続き一服感がみられる。先行きについては、人手不足、コストの上昇、平成30年7月豪雨の影響等に対する懸念もある一方、引き続き受注、設備投資等への期待がみられる」とまとめている。

本会の実施する7月期景況調査では、前月との比較において、全9項目中6指標が悪化の傾向となった。非製造業における「売上高」の前月比は-33.3ポイントとなり、非製造業で悪化の要因となった。

## 概況

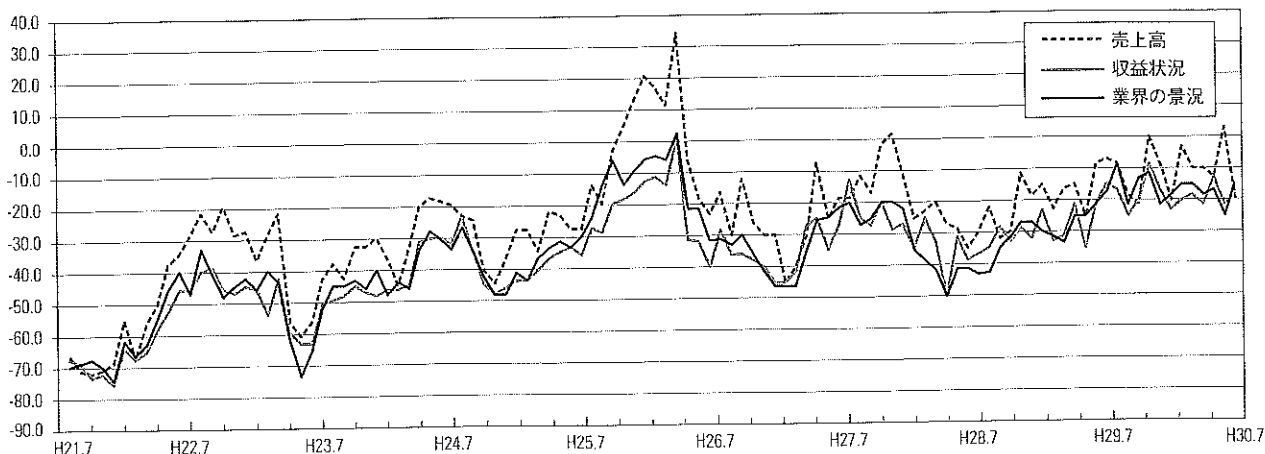
- 平成30年7月のDI値は、「販売価格」を除く8指標が基準値(±0.0)を下回った。主要3指標(「売上高」「収益状況」「業界の景況」)は、前月との比較において「収益状況」「業界の景況」は改善、「売上高」は悪化した。
- 「製造業」では、前月との比較において全9指標中「販売価格」「収益状況」「資金繰り」「雇用人員」「業界の景況」の5指標が改善する結果となった。
- 「非製造業」では、前月との比較において全8指標中「売上高」「販売価格」「取引条件」「資金繰り」の4指標が悪化した。特に「売上高」においては、前月と比較すると-33.3ポイントと、大幅な悪化となった。

## DI値の推移 ※DI値 = [(増加・好転組合数 - 減少・悪化組合数) / 対象組合数] × 100

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人数	業界の景況
H30.7	-20.0	4.7	0.0	-10.0	-18.4	-16.7	-6.6	-6.7	-15.0
DI値	☹	☁	☁	☁	☺	☺	☁	☁	☺
H30.6	3.4	0.0	5.0	-5.0	-21.7	-15.0	-3.3	-10.0	-25.0
H30.6→H30.7	-23.4↓	4.7↑	-5.0↓	-5.0↓	3.3↑	-1.7↓	-3.3↓	3.3↑	10.0↑

+0.1以上…☺ ±0.0~-10.0…☁ -10.1~-20.0…☹ -20.1~-…☹☹ なお「在庫数量」のみマイナス値が大きいほど好転を示している。  
※基準値±0.0=前年同月比横ばい。

## 主要三指標DI値推移(過去10年間)



(平成30年7月の情報連絡員月次景況調査より)

静岡県中央会に設置されている情報連絡員〔協同組合等の役職員60名に委嘱〕による毎月の景況調査の概要です。

## 業界の声 対象17業種より抜粋

### ■製造業

#### (水産食料品製造業)

- ・資金繰り悪化と先行き不安からの設備投資に踏み切れない状況。
- ・昨年同期と比較して魚価が下がっており、原価も低下。この豊漁状態が続けば収益も期待ができる。

#### (織物業)

- ・本年9月に染色工場の廃業が決定。綿織物の加工先が県外へ移転せざるを得ない状況。

#### (宗教用具製造業)

- ・厳しさは相変わらず。中でも仏壇の小型化が増えるにつれ、通販及びインターネットでの販売が少しずつ増加傾向にある。

#### (木材・木製品製造業)

- ・原料コストに加えて運送コストが収益を圧迫している。

#### (パルプ・紙・紙加工品製造業)

- ・繁忙期が過ぎ、生産も落ち着いてきている。家庭紙メーカーの中で新工場が稼働し始めているところでは前年より少し供給が多くなっているようだが、ティッシュの出荷量は値上げの影響から減少しているようだ。

#### (印刷・同関連業)

- ・チラシの需要の減少が加速している。機械・食品等の輸出が秋口より始まれば、大いに期待が持てる。

#### (金属製品製造業)

- ・新規立ち上がり部品向けの受注が増加している。

#### (生産用機械器具製造業)

- ・機械設備業界の受注は順調に推移しているが、設計部門の人材育成に時間を要するため、そこでの人手不足がネックになっている。

#### (電気機械器具製造業)

- ・猛暑の影響により、空調機の販売は好調であった昨年を上回る状況。人手不足の問題は継続している。

#### (輸送用機械器具製造業)

- ・原油価格の上昇により、材料費の値上がりが懸念される。
- ・四輪車の販売は引き続き好調で、生産量も増加して多忙な状況が続いている。今年は猛暑が続いており、社員の健康管理が気がかりである。

#### (その他の製造業)

- ・猛暑により、空調機業界は製品の供給が追い付かず、協力会社も受注が増加傾向にある。

### ■非製造業

#### (セメント卸売業)

- ・天候不順と異常気象が重なり、4ヶ月ぶりの前年比マイナスとなった。

#### (機械器具小売業)

- ・在庫が品薄。エアコンが好調で、この状況が8月～9月まで続く見通し。

#### (鮮魚小売業)

- ・猛暑により来店客数、売上が減少。不漁の影響を受け、今後も入荷

不足となる見通し。鮮魚小売店は非常に厳しい経営状況にある。

#### (商店街)

- ・7月の大イベントが台風のため中止となり、市民の皆様から順延はないのかと問い合わせが殺到した。理事会を早速に開き、検討していく。

- ・7月より第三土曜日と翌日の日曜日が11時より歩行者天国となった。それに伴い、オープンカフェを設置したが、暑くてご利用のお客様はあまりなかった。また11時30分よりクロマハープの演奏を行ったが、やはりお客様は少なかった。

- ・7/25(水)、26(木)の2日間、施設内で納涼祭を行い、昨年よりもかなり多くの方が来られた。

- ・8/4(土)昨年までの夏祭りを縮小し、夕涼み百縁笑店街とグルメフェアを行うので、賑わいをみせたい。

#### (宿泊業)

- ・7月前半は順調に推移していたが、連日の猛暑による出控えから、中旬以降宿泊予約が止まった。さらに台風12号の影響で多くの宿泊キャンセルが発生した。

#### (総合工事業)

- ・業界紙によると上期県内企業倒産集計の業種別内訳では、建設業が4期連続で最多となった。当組合員においては倒産はなく推移している。不況型倒産は前年に引き続き高水準となった。不況型倒産の大半は販売不振によるもので、リーマン・ショックや東日本大震災以降の業績悪化から脱しきれなかった中小零細企業が目立った。また、代表者死去や体調不良により事業継続を断念するケースや、人材不足によるものが多く発生しているという。

- ・官庁工事での価格競争によって、指名業者の中でも入札に参加する業者と参加しない業者に分かれてきている。

- ・住宅需要が堅調であり、また工場設備投資(自動車のEV化を見越した自動車産業の設備投資)の増加に伴う電気工事の需要が増加している。こうした状況により、人手不足(監理技術者、職人の不足)が顕在化しつつある。その対応策として、外国人技能実習制度の活用を模索中であるが、電気工事業が外国人技能実習制度のメニューに入っていない現状がある。

#### (職別工事業)

- ・着工案件は増えてきて売上高は増加傾向にあるが、受注金額に反映されず、人手不足もかなり顕著になってきている。労務費の上昇、酷暑での生産性悪化などにより、収益は売上上昇分を消化できていない様子が見受けられる。

#### (道路貨物運送業)

- ・西日本豪雨により、道路やJRの線路が甚大な被害を受け幹線輸送が寸断された。車両不足に加え、災害の影響で愛知以西への運賃が大幅に上昇している。山陽本線の復旧は11月頃とみられ、運賃の高騰は続きそう。猛暑により飲料や家電等の季節商品は荷動きが活発となっている。

- ・荷動きは良いが、ドライバー不足により車が見つからない状況。

## 特定外来生物「ヒアリ」等にかかる情報について

昨年6月に兵庫県尼崎市においてヒアリが確認されて以後、全国各地の港湾等で確認され、本県内においても清水港などで、ヒアリ、アカカミアリが確認されております。

今年に入り、本県においては、7月5日に浜松市で、7月23日に清水港でアカカミアリが確認されております。特定外来生物に関する情報は、県ホームページにおいて「緊急・危機管理情報」として随時公表しておりますのでご確認ください。

県ホームページ「緊急・危機管理情報」

<https://www.pref.shizuoka.jp/kinkyu/index.html>